

RPPCメール

リサイクルポート推進協議会

第611号（平成28年1月27日発行）

【今週号の主な内容】

■《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません

■《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 『平成27年9月関東・東北豪雨による災害廃棄物処理の現地視察（見学会）』開催について
2. 汚染土壌事業化PT 次回WG開催のお知らせ

■《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. リサイクルポートセミナー、循環資源利用促進へ海上輸送の現状など講演
2. 室蘭港仲町地区埋め立て、新日鉄住金が年度内着工
3. 姫路港の整備・利用のあり方検討会、次回から長期構想

《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 『平成27年9月関東・東北豪雨による災害廃棄物処理の現地視察（見学会）』開催について

RPPC調査研究部会は、環境省のご協力のもと、昨年9月の標記豪雨災害の災害廃棄物処理について、下記の日程で現地視察（見学会）を企画いたしました。

参加希望の方は、参加者の氏名、団体・所属と連絡先を記入の上、RPPC事務局宛にご返信下さい。

定員になり次第募集を締め切ります。（定員20名）

記

日 時：平成28年2月5日（金） 13:00～

集 合：つくばエクスプレス守谷駅（改札口）

参加費：無料

※移動手段は貸切バスを予定しております。

※スケジュール案を添付いたしますが、内容変更の可能性がございます。

2. 汚染土壌事業化PTの次回WGの開催について

下記日時にて開催予定となっておりますのでご確認ください。

（時間が通常より30分繰り上げてますのでお気を付け下さい）

記

日 時：平成28年1月28日（木）

13:00～14:00 WG②、⑥ ※WG②は開催日時再調整中

14:00～15:00 WG③・④

15:00～16:00 WG①

場 所：みなと総研 3階 会議室

【事務局】

=====

《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. リサイクルポートセミナー、循環資源利用促進へ海上輸送の現状など講演

リサイクルポート推進協議会は1月15日、東京都品川区の第一シーフォートで「平成27年度リサイクルポートセミナー」を開催した。同セミナー開催は今回で14回目。港湾や空港整備事業におけるリサイクル材料（循環資源）の利用促進に資する講演が行われた。

セミナー開催にあたり来賓挨拶した中原国土交通省港湾局海洋・環境課港湾環境政策室長は、「平成15年の協議会設立以降、循環資源の広域リサイクルは着実に拡大している。国交省では環境省との連携による『モーダルシフト・輸送効率化による低炭素型静脈物流促進事業（26年度新規採択）』の取組み等を進めている。本日の講演内容でもある循環資源の海上輸送の現状や、国際循環ビジネスの動向等をしっかりと把握し、リサイクルポートに関連する取組みを推進していきたい」と語った。

当日は菊池喜昭東京理科大学理工学部土木工学科教授が、「リサイクルガイドラインの改訂について～港湾・空港等整備における循環資源の利用促進～」をテーマに基調講演したほか、村上直美共立輸送関東顧問（コンテナを活用した静脈物流の海上輸送拡大のための調査検討会委員）が、「循環資源の海上輸送の現状」、小林均リーテムサステナビリティ・ソリューション部副部長（早稲田大学環境総合センター招聘研究員）が、「中国と連携した国際循環ビジネスについて」と題して講演。また「災害廃棄物処理支援ネットワーク（D.Waste-Net）」の概要等を大塚直樹環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部課長補佐が説明した。

このうち菊池教授は、先月改訂した「港湾・空港等におけるリサイクルガイドライン」の概要や新たに盛り込んだ項目等を紹介。港湾・空港用リサイクル材料の適切な環境安全品質を確保するための検査方法や管理方法について説明したほか、人工地盤材料の開発例（気泡混合固化処理土、管中混合処理土、カルシア改質土）等を紹介した。

一方、村上顧問は循環資源の海上輸送実績（26年度）や同輸送の課題等について説明。循環資源海上輸送利用港湾の積地・揚地とも約80%は専用ふ頭で公共ふ頭の利用率が低いほか、内航海運事業者の減少等といった課題があるとし、今後、内航海運の利用がしやすくなるような環境整備（法的対応・取扱基準等）を早急に行う必要があると指摘。循環資源の海上輸送をトリガーとして、あらためて国内物流における内航海運の地位向上に向けた取組みを進めていくべきと提案した。

【港湾空港タイムス】

.....

2. 室蘭港仲町地区埋め立て、新日鉄住金が年度内着工

室蘭港の仲町地区で新日鉄住金が実施する埋め立ての免許が昨年12月におり、年度内に工事がスタートする。同社が昨年7月に埋立免許を出願していた。埋め立ての完成は平成30年の予定。

埋立面積は工業用地11・5haと交通機能用地0・7haを合わせた面積12・2ha。埋立地を締め切る護岸は鋼矢板式の延長392m。埋立土量は83万4000立方mあり、そのうち75万立方mは鉄鋼スラグを投入。残りは建設発生土や浚渫土砂。いずれも埋立柱材としての環境基準を満たしたものになる。

新日鉄住金はJESCOのPCB処理施設に用地を貸しているが、処理の事業期間が延伸されたため、必要な用地を新たな埋立で確保する。造成した土地は鋼材の置き場や高炉改修工事のための資材置き場にする。

【港湾空港タイムス】

.....

3. 姫路港の整備・利用のあり方検討会、次回から長期構想

兵庫県は、昨年9月からスタートさせた姫路港の整備・利用のあり方検討会（会長・黒田勝彦神戸大学名誉教授）の第2回目を今月15日に開催。次の第3回目から長期構想の審議に入る。

第2回目では第1回目で出された課題への対応方針を議論。3月に予定する第3回目では姫路港の長期構想素案を審議し、5月頃の第4回目で長期構想を取りまとめる。その後は整備計画の検討会を立ち上げ、港湾計画改訂について議論。29年度を目途に改訂を目指す。改訂案は29年12月の兵庫県港湾審議会、30年2月の交通政策審議会港湾分科会にかける予定。

現行の港湾計画の目標年次は平成17年で、既に10年を経過したが、ここに来て改訂に取り組む要因として、物流に関しては原木の取扱いが大きく変化したことや、国際コンテナ戦略港湾が選定され、コンテナ戦略が大きく変わったことを挙げている。また、撤退した工場跡地の活用を検討する必要性が生じたことも要因の一つ。

第2回の検討会で示された課題への対応方針では、循環資源の取り扱い拠点としての機能強化も挙げている。循環資源の適正な取扱いを促進させ、粉塵・騒音・景観悪化の防止に努めることにより、姫路港を利用した静脈物流を形成し、環境改善に取り組む、としている。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

※メルマガ配信先に変更がある場合は事務局までご連絡下さい。

#####